

## チーム京都・「住むなら都」移住応援チームについて（案）

### 1 チーム京都について

（「まち・ひと・しごと・こころ京都」総合戦略（案）「IV 推進体制等」の記述から抜粋）

各基本目標のリーディング事業の中から、シンボリックな事業を選定し（複数）、本市担当部局の職員や、取組主体の市民等によるプロジェクトチーム「チーム京都」を組んで、一体的に推進することを検討します。

各チームでは、参画する本市職員と市民・関係団体等の方々が、目標の共有、取組の連携・協力の相談、取組推進のための知恵の出し合い等を行います。

また、市民・関係団体等の方々と本市職員が“垣根”を超えて交流し、率直に議論し、刺激し合い、理解と絆を深めながら切磋琢磨する中で、共に“人口減少社会克服の担い手”として、互いに高め合うことを目指します。

### 2 チーム京都・「住むなら都」移住応援チームの発足について

#### （1）チーム発足の経過等

総合戦略のリーディング事業に掲げた以下の取組（下記(2)）について、相互に連携して推進を図ることが、各取組の効果をより高めることにつながるとの観点から、「京都創生・お宝バンク」の登録提案に係るコーディネートの一環として、事務局（総合企画局）から、各提案者及び庁内関係部局にチームの発足を提案。

その結果、各提案者及び庁内関係部局からも積極的な連携の意向が示され、チームへの参画に同意が得られたもの。

#### （2）「移住応援チーム」の参画者の、リーディング事業に掲げた取組

（市民等取組提案）

<p><b>京都への移住希望者の応援事業</b></p> <p>①移住希望者向け就職・住宅情報等の発信とマッチング、②移住相談窓口設置、③首都圏での移住相談会、④お試し移住・お試し職業体験実施、⑤移住希望者と既移住者の交流会開催（各区）、⑥少子高齢化等が進む地域における「若者移住モデル事業」の企画・実施等、総合的な移住支援に取り組む。</p>	<p><b>取組提案者 京都移住計画</b></p>
<p><b>「空き家×まちづくり」</b></p> <p>空き家の情報発信、移住者など空き家活用希望者とのマッチング、移住体験のあっせん等に取り組む。</p>	<p><b>取組提案者 あきや活用まちづくりセンター</b></p>
<p><b>移住希望者の心配や気がかりを解消するインターネットサイトの開設</b></p> <p>移住希望者の「京都は観光にはいいけど住むにはどうか」「京都の人は付き合いが難しそう」等の質問や誤解に答えるインターネットサイトを開設する。</p>	<p><b>取組提案者 ㈱リーフ・パブリケーションズ</b></p>

(本市事業)

**移住促進・支援施策の推進**

市内体制の強化を図り、市民等提案の取組等と連携しながら、移住希望者の“しごと”，“住まい”，“子育て”等のニーズや、都心部の暮らし・周辺部の暮らし・二地域居住などライフスタイルの希望に対応した移住促進・支援に取り組む。

また、他都市から移住してきた方などの協力を得て、外から見た京都の魅力や課題を探り、参考にしながら施策の効果的な推進を図る。

**京都に住む魅力のPR冊子の制作と移住希望者への情報発信**

職住近接や充実した子育て環境など京都に住む魅力のPR冊子を制作し、ふるさと回帰支援センター等を活用して情報発信する。

**総合的な空き家対策の推進**

平成26年4月施行の「京都市空き家の活用，適正管理等に関する条例」に基づき、「空き家の活用・流通の促進」をはじめとする総合的な空き家対策を推進する。

**北部山間地域の振興**

「京都 京北未来かがやきビジョン」及び各区基本計画等に基づき、本市の北部山間地域全体の活性化に取り組む。

また、北部山間地域における農家民宿の開業・普及を促進するとともに、超高速インターネット環境の整備促進に取り組む。

(3) チームメンバー

(敬称略)

区分	団体名等	代表メンバー
取組提案者	京都移住計画	田村 篤史
〃	〃	田中 祐也
〃	あきや活用まちづくりセンター	赤崎 盛久
〃	〃	森川 哲己
〃	(株)リーフ・パブリケーションズ	堀川 豊
〃	〃	大本 ふみ
本市職員	総合企画局市長公室	三谷 浩之
〃	文化市民局地域自治推進室	松村 憲司
〃	都市計画局まち再生・創造推進室	寺澤 昌人
〃	都市計画局住宅室住宅政策課	岡田 圭司

※ 必要に応じてチーム員を追加することがある。